科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 29 年 5 月 3 日現在

機関番号: 24701

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2014~2016

課題番号: 26462249

研究課題名(和文)サルコペニアと脊椎アライメント変化に着目した運動機能低下診断・予測ツールの開発

研究課題名(英文)Development of diagnostic and predictive tool for motor function decline focusing on sarcopenia and spinal alignment change

研究代表者

橋爪 洋 (HASHIZUME, Hiroshi)

和歌山県立医科大学・医学部・講師

研究者番号:10326382

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文):MRIで観察される脊柱周囲筋群の評価基準を設定し、加齢に伴う姿勢不良(前傾姿勢)・腰痛との関連を解明することを目的とした。(1)地域住民794名に対し全脊柱X線とMRIを含む検診を実施した。(2)新規開発した画像計測ソフトを用いて 脊椎矢状面アライメント指標、 脊柱周囲筋群(傍脊柱筋と大腰筋)の横断面積ならびに脂肪変性割合、の性別・年代別標準値を算出した。(3)さらに椎体骨折や椎間板変性も加味して検討した結果、姿勢不良と腰痛に関連する因子が明らかとなった。

研究成果の概要(英文): A forward shift of the sagittal vertical axis is reported to be a radiographic predictor of low back pain as well as disability of ADL in elderly. The purpose of this study was to elucidate the association of degenerative changes on MRI and sagittal imbalace in a general population. A total of 794 inhabitants were subjected to a sagittal radiograph of the whole spine in a standing position and whole spine MRI. Cross-sectional area (cm2) and percentage of the fatty degeneration area in the spinal muscles were measured by a DICOM software. Mean cross-sectional areas of the muscles around the lumbar spine were significantly reduced with elevation of age strata in both genders. The fatty degeneration was significantly predominant in the paravertebral muscles in compared to the psoas muscles in both genders. The spinal imbalance was significantly associated with low back pain. Degeneration of the paravertebral muscle at L1 level was a significant associated factor of sagittal imbalance.

研究分野: 整形外科学

キーワード: 脊椎 加齢変性 傍脊柱筋 大腰筋 腰痛 矢状面バランス 一般住民 MRI

1. 研究開始当初の背景

加齢に伴う脊椎アライメント不良(前傾姿 勢)と運動機能低下の関連について過去にも 検討が行われ、これらに相互に作用する因子 として筋量の低下(サルコペニア)が示唆さ れているものの、解析対象と評価体系に問題 があるため、因果関係が証明されるまでには 至っていなかった。脊椎アライメント不良に は椎間板変性、骨粗鬆症性椎体骨折、傍脊柱 筋変性、脊柱管狭窄などが関与するものと考 えられるが、高齢者ではこれらが複数存在し ているため、その影響度合いが不明である。 つまり、脊椎アライメントと関連要因につい ての疫学指標や症状との関連、姿勢変化の原 因について不明の点を多く残していた。

2. 研究の目的

- (1)地域代表性が確立した住民健診をサルコ ペニア・脊椎アライメントと運動機能をター ゲットにしたコホート調査へと拡大しデー タベースを構築すること
- (2)新たに「腰椎単純 MRI 定量評価システム」 を開発して、傍脊柱筋量の評価を行うことに より、サルコペニア (脊柱周囲筋群の変性) と脊椎アライメント・腰痛の因果関係を明ら かにすること
- (3) 高齢者に重複して存在する椎間板変性、 骨粗鬆症性椎体骨折、脊柱周囲筋群の変性な どを半定量的に評価し、各因子が脊椎アライ メントに影響する度合いと臨床上重要な脊 椎高位を明らかにすること

3. 研究の方法

和歌山県 T 町で 2013 年に実施された ROAD 第3次検診への参加者952名のうち、全脊柱 矢状面 X-P 像と腰椎 MRI 横断像で筋群の評価 が可能であったもの 794 名 (男性 239 名、女 性 555 名、平均年齢 63.6±13.1 歳) を対象 とした。

- (1) 平成 26 年度は画像計測半自動的に行うた めのソフトウェアを開発し、全脊柱矢状面単 純X線像にて C7 sagittal vertical axis (C7 SVA、単位 mm)、L1 椎体上位終板レベルの傍 脊柱筋(脊柱起立筋と多裂筋を含む)と L5 椎体上位終板レベルの傍脊柱筋と大腰筋に ついて、各々横断面積(mm2)と脂肪変性領域 (%) を測定した。
- (2) 平成 27 年度は立位単純 X 線側面像にて Pelvic Incidence (PI), Pelvic Tilt (PT) を追加計測した。また、MRI 上胸腰椎の①椎 間板変性 (Pfirrmann 分類 Grade1-5)、②形 態的椎体骨折(SQ法 Grade0-3)、③硬膜管横 断面積(mm²)、④傍脊柱筋(PVM) 脂肪変性(L1 上位終板高位横断面脂肪変性領域%) を評価 した。腰椎椎間板 Phirrmann grade の総和を lumbar DD index (範囲 5-25)、T1-L5 椎体の

SQ grade の総和を Morphometric Fracture Index (MHI:範囲 0-51)とした。統計解析は矢 状面アライメント不良 (C7 SVA 50mm 以上と 定義)の有無を目的変数、その他の測定評価 項目(2値化したもの)を説明変数とする多 重ロジスティックモデルを作成した(有意水 準 p<0.05)。

(3) 平成 28 年度はさらに姿勢不良 (C7 SVA 50mm 以上と定義) の有無または腰痛の有無を 目的変数、胸腰椎の5区分(T2-4、T5-7、T8-10、 T11-L1、L2-4) 各々における SQ grade また は腰椎の5椎間板における Pfirrmann grade を説明変数、性・年齢・BMI を調整変数とす る多重ロジスティック回帰分析を行った。

4. 研究成果

(1)C7 SVA は男女とも年代の上昇と共に有意 に増加していた。脊柱周囲筋群の左右横断面 積は男女とも年代の上昇と共に有意に減少 していたが、減少度合いは男性の方が大きか った。脂肪変性は大腰筋よりも傍脊柱筋で顕 著であった。傍脊柱筋横断面積の脂肪変性領 域は男女とも年代の上昇と共に有意に増加 していた(表1)。

表1. 矢状面アライメント指標(C7 SVA)、傍脊柱筋(PVM)、大腰筋(PM)計測値の性別・年代別標準値

		50歳未満	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	
C7 SVA (cm)	男性	-12.1±21.0	4.0±27.3	6.2±35.0	26.9±50.2	33.6±42.8	
	女性	-14.7 ± 22.8	-4.7 ± 23.4	3.5 ± 26.7	22.8±40.0	63.2±63.6	
傍脊柱筋 L1高位							
横断面積(cm²)	男性	21.7±3.2	19.7±3.4	19.8±3.3	18.1 ± 3.7	15.5±3.4	
	女性	14.3±2.8	14.8±2.4	14.7±3.0	14.8 ± 2.8	13.4±2.5	
脂肪変性領域(%)	男性	5.1 ± 2.2	5.8 ± 1.8	7.1 ± 2.2	9.8±4.5	9.0±3.4	
	女性	6.5 ± 1.7	8.4 ± 2.4	9.6 ± 3.4	12.5 ± 6.2	14.0±6.9	
傍脊柱筋 L5高位							
横断面積 (cm²)	男性	24.9±3.7	22.0±3.8	21.5±3.0	20.2±3.4	19.6±3.5	
	女性	19.0±2.6	19.0±2.7	18.0±3.0	18.0±2.9	16.5±3.2	
脂肪変性領域(%)	男性	6.3±2.2	8.5±2.4	10.6±3.7	13.5±4.5	16.5±4.8	
	女性	9.3±2.7	12.7±4.0	15.6 ± 4.5	19.1 ± 5.4	22.9 ± 7.9	
大腰筋 L5高位							
横断面積(cm²)	男性	15.2±2.3	13.4±2.4	12.7±2.5	11.2±2.0	9.6±1.9	
	女性	8.6 ± 1.4	7.8 ± 1.1	7.4 ± 1.4	7.6±1.4	6.9 ± 1.3	
脂肪変性領域(%)	男性	7.2±3.5	7.5±3.8	7.9 ± 2.8	8.3±2.7	8.8±2.2	
	女性	7.3 ± 1.9	8.2 ± 2.2	9.1 ± 2.5	9.4±2.6	9.7±2.2	
	データは平均土標準偏差を示						

データは平均土標準偏差を示す

重回帰モデル検討の結果、L1 レベル傍脊柱筋 の脂肪変性領域(の増大)が腰痛の有病(単 位オッズ比 1.06) と VAS の増加(標準回帰係 数 0.13) に有意に関連していることが判明し た。また、L1 レベルでの傍脊柱筋脂肪変性領 域の増加が C7 SVA の増加に有意に関連 (標 準偏回帰係数 0.27) していた。

- (2) 矢状面アライメント不良に有意に関連す る因子は 1)年齢(70歳以上、オッズ比 2. 48[95%CI:1. 33-4. 69]) 、2) PT (18. 7 度以 上、3.12[1.77-5.63])、3) 椎体骨折(T1-L5 椎体の SQ grade の総和が 4 以上、 2.01[1.15-3.51]) 、4)PVM 脂肪変性(10.6% 以上、4.98[2.74-9.27]) であった。
- (3) 姿勢不良に有意に関連する VF 高位(区分) は T11-L1 のみであり、区分内の grade 総和 3 以上(基準 2 以下)のオッズ 2.3

(95%CI:1.2-4.2)であった。姿勢不良に有意に関連するDD高位はL5/Sのみであり、grade 5(基準4)のオッズ2.6(1.4-4.7)であった。腰痛に有意に関連するVF区分もT11-L1のみであり、grade総和2以上(基準1以下)のオッズ1.6(1.1-2.4)であった。腰痛に有意に関連するDD高位はL5/Sのみであり、grade5(基準4)のオッズ1.8(1.2-2.7)であった。

以上により、①日本人における脊柱周囲筋群の性別・年代別標準値を明らかにした。②L1レベルで測定されるPVM横断面積脂肪変性割合が10.6%以上になると矢状面アライが5となることが5となることが5となることが5となることが5となることが5となることがが5となることが4年間板変性(DD)が高齢者の姿勢にが6VF)や椎間板変性(DD)が高齢者の姿勢腰痛の原因となり得るが、VFであることが9時間があるが、VFであることなり得るが、DDではL5/Sが重要であることなり時に対すがある。脊柱周囲筋群計測値は高齢者に対するとなった。脊柱筋は今回有意子すするとなった。脊柱周囲筋群計測値は高齢者に対する。

5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔雑誌論文〕(計11件)

print]査読有

- 1. Nagata K, <u>Hashizume H (12 名中 3 番目)</u>, <u>Oka H (12 名中 7番目)</u>, et al. The prevalence of tandem spinal stenosis and its characteristics in a population-based MRI study: The Wakayama Spine Study. Eur Spine J. 2017 Apr 3. doi: 10.1007/s00586-017-5072-0. [Epub ahead of
- 2. Kodama R, Oka H (14 名中 4 番目), Hashizume H (14 名中 8 番目), et al. Serum levels of matrix metalloproteinase-3 and autoantibodies related to rheumatoid arthritis in the general Japanese population and their association with osteoporosis and osteoarthritis: the ROAD study. J Bone Miner Metab. 2017 Apr 1. doi: 10.1007/s00774-017-0834-7. [Epub ahead of print] 査読有
- 3. Teraguchi M, <u>Hashizume H (15 名中 3 番目)</u>, <u>Oka H (15 名中 5 番目)</u>, et al. Progression, incidence, and risk factors for intervertebral disc degeneration in a longitudinal population-based cohort: the Wakayama Spine Study. Osteoarthritis Cartilage. 2017 Jan 13. pii: S1063-4584(17)30007-9. doi:10.1016/j.joca.2017.01.001. [Epub ahead of print] 查読有

- 4. Ishimoto Y, <u>Hashizume H (14名中6番目)</u>, <u>Oka H (14名中9番目)</u>, et al. Association of Lumbar Spondylolisthesis with Low Back Pain and Symptomatic Lumbar Spinal Stenosis in a Population-based Cohort: The Wakayama Spine Study. Spine (Phila Pa 1976). 2016 Oct 24. doi: 10.1097/BRS.0000000000001960. [Epub ahead of print] 査読有
- 5. Nakamura M, <u>Hashizume H (9 名中 3 番目)</u>, <u>Oka H (9 名中 4 番目)</u>, et al. Locomotive syndrome is associated with body composition and cardiometabolic disorders in elderly Japanese women. BMC Geriatr. 2016 Sep 27;16(1):166. https://bmcgeriatr.biomedcentral.com/articles/10.1186/s12877-016-0339-6 査読有
- 6. Teraguchi M, <u>Hashizume H (16 名中 3 番目)</u>, <u>Oka H (16 名中 6 番目)</u>, et al. Classification of High Intensity Zones of the Lumbar Spine and Their Association with Other Spinal MRI Phenotypes: The Wakayama Spine Study. PLoS One. 2016 Sep 20;11(9):e0160111. doi: 10.1371/journal.pone.0160111. 查読有
- 7. Iwahashi H, <u>Hashizume H (19 名中 3 番目)</u>, <u>Oka H (19 名中 5 番目)</u>, et al. The Association between the Cross-Sectional Area of the Dural Sac and Low Back Pain in a Large Population: The Wakayama Spine Study. PLoS One. 2016 Aug 3;11(8):e0160002. doi: 10.1371/journal.pone.0160002. 查読有
- 8. Teraguchi M, <u>Hashizume H (15 名中 3 番目)</u>, <u>Oka H (15 名中 6 番目)</u>, et al. Metabolic Syndrome Components Are Associated with Intervertebral Disc Degeneration: The Wakayama Spine Study. PLoS One. 2016 Feb 3;11(2):e0147565. doi:10.1371/journal.pone.0147565. 查読有
- 9. Enyo Y, Yoshimura N, Yamada H, <u>Hashizume</u> <u>H</u>, Yoshida M. Radiographic natural course of lumbar degenerative spondylolisthesis and its risk factors related to the progression and onset in a 15-year community-based cohort study: the Miyama study. J Orthop Sci. 2015 Nov;20(6):978-84. doi: 10.1007/s00776-015-0759-8. 查読有
- 10. Nakamura M, <u>Hashizume H</u>, <u>Oka H</u>, Okada M, Takakura R, Hisari A, Yoshida M, Utsunomiya H. Physical Performance Measures Associated With Locomotive Syndrome in Middle-Aged and Older Japanese

Women. J Geriatr Phys Ther. 2015 Oct-Dec;38(4):202-7. doi: 10.1519/JPT.0000000000000033. 査読有

11. Teraguchi M, <u>Hashizume H (16 名中 3 番目)</u>, <u>Oka H (16 名中 6 番目)</u>, et al. The association of combination of disc degeneration, end plate signal change, and Schmorl node with low back pain in a large population study: the Wakayama Spine Study. Spine J. 2015 Apr 1;15(4):622-8. doi:10.1016/j.spinee.2014.11.012. 查読有

〔学会発表〕(計 件)

- 1. <u>橋爪 洋</u>、吉村典子、佐々木貴英、岩橋弘樹、<u>岡 敬之</u>、西村行秀、村木重之、松平 浩、山田 宏、吉田宗人. 一般住民における脊柱周囲筋群の評価と応用 -The Wakayama Spine Study. 第 46 回日本脊椎脊髄病学会学術集会シンポジウム 3 一般住民検診からみた脊椎脊髄疾患の評価と応用、2017年4月13-15日. 札幌市.
- 2. 橋爪 洋、吉村典子、山田 宏、<u>岡 敬之</u>、 寺口真年、岩橋弘樹、浅井宣樹、佐々木貴英、 村木重之、松平 浩、筒井俊二、岩﨑 博、南 出晃人、中川幸洋、吉田宗人. 高齢者の姿勢 不良・腰痛に対する椎体骨折と椎間板変性の 高位別影響度合いについて-The Wakayama Spine Study、第 24 回日本腰痛学会、2016 年 9月 2-3 日. 甲府市.
- 3. <u>Hashizume H (13 名中 1 番目)</u>、 <u>Oka H (13 名中 3 番目)</u>、 et al. Paravertebral muscle degeneration is the most significant associated factor for the sagittal imbalance -The Wakayama Spine Study. International Society for Study of Lumbar Spine (ISSLS) at SpineWeek 2016. 2016. May 16-20. Singapore.
- 4. <u>Hashizume H (13 名中 1 番目)</u>、 <u>Oka H (13 名中 3 番目)</u>、 et al. Aging change of the paravertebral muscles and psoas muscles of the lumbar spine and relation to the low back pain in a general population -The Wakayama Spine Study. Asia Pacific Spine Sciety (APSS) at SpineWeek 2016. 2016. May 16-20. Singapore.
- 5. Teraguchi M、Hashizume H(11 名中 2番目)、Oka H(11 名中 6番目)、et al. Diabetes mellitus is a significant risk factor for lumbar disc degeneration in a longitudinal population based cohort: The Wakayama Spine Study. International Society for Study of Lumbar Spine (ISSLS) at SpineWeek 2016. 2016. May 16-20. Singapore.

- 6. Iwahashi H, Yoshimura N, <u>Hashizume H</u>, Yamada H, <u>Oka H</u>, Yoshida M. The association between the cross-sectional area of the dural sac and low back pain in a large population: The Wakayama Spine Study. International Society for Study of Lumbar Spine (ISSLS) at SpineWeek 2016. 2016. May 16-20. Singapore.
- 7. Teraguchi M、Hashizume H(10 名中 3 番 <u>目)、Oka H(10 名中 6 番目)</u>、et al. Novel classification and risk factors of high intensity zones of the lumbar spine: The Wakayama spine study. International Society for Study of Lumbar Spine (ISSLS) at SpineWeek 2016. 2016. May 16-20. Singapore.
- 8. Enyo Y, Yoshimura N, Yamada H, <u>Hashizume H</u>, Yoshida M. Radiographic natural course of lumbar degenerative spondylolisthesis and its risk factors related to the progression and onset in a 15-year community-based cohort study: The Miyama study. International Society for Study of Lumbar Spine (ISSLS) at SpineWeek 2016. 2016. May 16-20. Singapore.
- 9. 橋爪 洋、吉村典子、山田 宏、岡 敬之、 寺口真年、岩橋弘樹、佐々木貴英、村木重之、 松平 浩、阿久根徹、川口 浩、中村耕三、南 出晃人、中川幸洋、吉田宗人:腰椎単純 MRI 上の加齢変性所見は腰痛の原因か?-The Wakayama Spine Study. 第 45 回日本脊椎脊 髄病学会学術集会シンポジウム 1 非特異的 腰痛の基礎と臨床、2016 年 4 月 14-16 日. 千 葉市.
- 10. 橋爪 洋、吉村典子、山田 宏、岡 敬之、 寺口真年、岩橋弘樹、浅井宣樹、佐々木貴英、 村木重之、松平 浩、籠谷良平、筒井俊二、 岩﨑 博、南出晃人、中川幸洋、吉田宗人: 傍脊柱筋変性は脊柱バランス不良の最大関 連要因である-The Wakayama Spine Study. 第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会シンポ ジウム 3 脊椎矢状面アライメントの異常と その矯正、2016 年 4 月 14-16 日. 千葉市.
- 11. <u>橋爪 洋</u>、吉村典子、山田宏、<u>岡 敬之</u>、 寺口真年、岩橋弘樹、佐々木貴英、村木重之、 阿久根徹、川口 浩、中村耕三、南出晃人、 中川幸洋、田中 栄、吉田宗人. 腰椎単純 MRI は腰痛の原因をどこまで説明可能か?: The Wakayama Spine Study. 第23回日本腰痛学 会シンポジウム. 2015年11月14-15日, 東京.
- 12. 橋爪 洋、吉村典子、山田宏、吉田宗人. 脊椎加変性疾患の疫学指標ならびに運動機 能との関連 : The Wakayama Spine Study. 第70回日本体力医学会シンポジウム. 2015

年9月18-20日,和歌山.

- 13. Hashizume H (15 名中 1 番目), Oka H (15 名中 4 番目), et al. Radiographic changes in the paravertebral muscles of the lumbar spine associated with the C7 sagittal vertical axis: The Wakayama Spine Study. Spine Across the Sea 2015, 2015, July 26-30, Hawaii, USA.
- 14. Hashizume H (14 名中 1 番目), Oka H (14 名中 4 番目), et al. Relationship between age-related changes in the paravertebral and psoas muscles of the lumbar spine and low back pain: The Wakayama Spine Study. Spine Across the Sea 2015, 2015, July 26-30, Hawaii, USA.
- 15. <u>Hashizume H</u>, Yoshimura N, Teraguchi M, Yoshida M. Radiographic changes in the paravertebral muscles of the lumbar spine associated with the C7 sagittal vertical axis: The Wakayama Spine Study. 10th Combined Congress of the Asia Pacific Spine Society, 2015, June 5-7, Hong Kong. Hashizume H (14名中1番目), Oka H (14名中4番目), et al. Radiographic changes in the paravertebral muscles of the lumbar spine associated with the C7 sagittal vertical axis: The Wakayama Spine Study. 43rd Annual Meeting of the International Society for the Study of Lumbar Spine, 2015, June 8-12, San Francisco, USA.
- 16. <u>Hashizume H (14 名中 1 番目)</u>, <u>Oka H (14 名中 4 番目)</u>, et al. Relationship between age-related changes in the paravertebral and psoas muscles of the lumbar spine and low back pain: The Wakayama Spine Study. 43rd Annual Meeting of the International Society for the Study of Lumbar Spine, 2015, June 8-12, San Francisco, USA.

〔図書〕(計 2件)

- 1. <u>橋爪 洋</u>. 腰痛・下肢痛のとらえ方/診断手順. 今日の整形外科治療指針第7版. 編集土 屋弘行・紺野愼一・田中康仁・田中栄・松田 秀一、pp657-659、医学書院、東京、2016
- 2. 橋爪 洋. 職業性腰痛、今日の治療指針 2015 年版 (Volume 57) 私はこう治療して いる、監修山口徹・北原光夫、総編集福井 次矢・高木誠・小室一誠、pp995-996、医 学書院、東京、2015

〔産業財産権〕 ○出願状況(計 0件) 該当なし ○取得状況(計 0件) 該当なし

〔その他〕 ホームページ等 該当なし

- 6. 研究組織
- (1)研究代表者

橋爪 洋 (HASHIZUME, Hiroshi) 和歌山県立医科大学・医学部・講師 研究者番号:10326382

(2)研究分担者

岡 敬之 (OKA, Hiroyuki) 東京大学・医学部附属病院・特任准教授 研究者番号: 60401064

- (3)連携研究者 該当なし
- (4)研究協力者

寺口真年 (TERAGUCHI, Masatoshi) 岩橋弘樹 (IWAHASHI, Hiroki) 佐々木貴英 (SASAKI, Takahide)